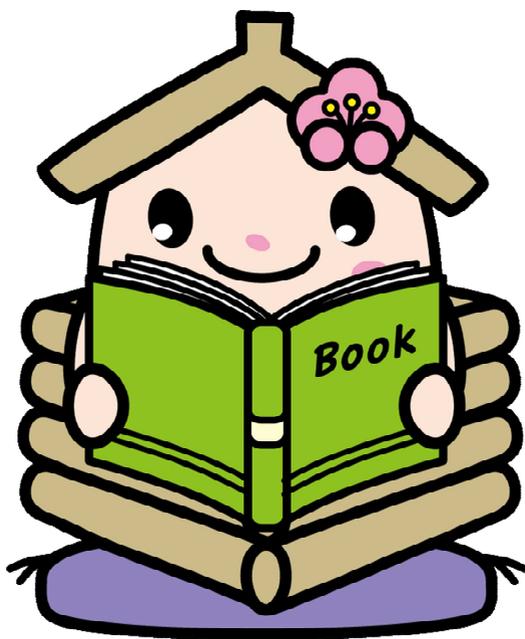


小学校3・4年生におすすめの本

2018

ブックセレクション



酒々井町立図書館

『くまのパディントン』 見 933 ポ

マイケル・ボンド／作 福音館書店

ブラウン一家は、ロンドンのパディントン駅で一匹のくまに出会います。出会いの場となった駅名から名付けられ、ブラウン一家と共に暮らすことになったパディントン。彼の行く先々で大騒動が巻き起こります。世界中で愛されるシリーズ第1作目です。



『小さなスプーンおばさん』 見 949 フ

アルフ・プリョイセン／著 学研

ある朝目を覚ますと、おばさんはティースプーンくらいに小さくなっていました。掃除も洗濯もお料理も、いつもどおりとはいきません。小さくなったり元に戻ったりしながら奮闘するおばさんの笑いと空想に満ちた物語です。



『エルマーのぼうけん』 見 933 ガ

ルース・スタイルス・ガネット／作

福音館書店

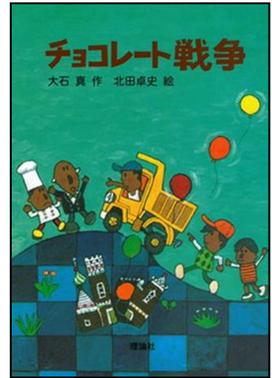
エルマーはある野良猫から「どうぶつ島」で野蛮な動物たちにとらえられている、かわいそうなりゅうの子の話を聞きました。助けに行くことにしたエルマーは、チューインガム、キャンディー、輪ゴム、ゴム長靴、磁石、虫めがねなど、リュックにつめてきた身近なものを使って、うまく危機を切り抜けていきます。



『チョコレート戦争』 児913才

大石真／作 理論社

ずずらん通りにある市一番の洋菓子店・金泉堂。この店のショーウィンドーが割れて、居合わせた光一と明が犯人扱いされてしまいます。「やっていない」といくら言っても信じてもらえません。悔しくてたまらない光一はお店のチョコレート城を盗む計画を立てますが、事態は思いもよらない方向へ?!



『大どろぼうホッツェンプロッツ』 児943ブ

プロイスラー／作 偕成社

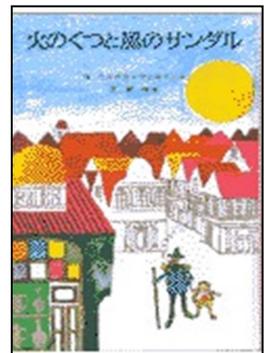
おばあさんの大切なコーヒーひきがぬすまれた！ぬすんだどろぼうを孫のカスパールと親友のゼッペルが追跡します。魔法使いや妖精も登場し、少年たちは知恵をしばって大活躍。続きに『大どろぼうホッツェンプロッツふたたびあらわる』『大どろぼうホッツェンプロッツ三たびあらわる』があります。



『火のくつと風のサンダル』 児943ベ

ウルズラ・ウェルフェル／作 童話館出版

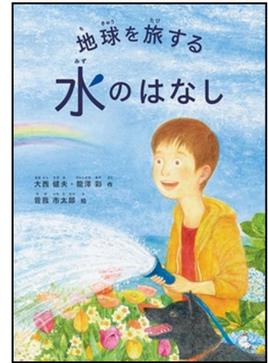
チムはデブでちびでびんぼう。いつもみんなにからかわれ、他の男の子になりたいと思ってしまいます。そんなチムの誕生日にお父さんは「火のくつ」という新しい名前とすてきな冒険旅行をプレゼントしてくれました。悩みを乗り越え、成長していくチムの姿と、お父さんの深い愛情が描かれた物語です。



『地球を旅する水のはなし』 知識Eソ

大西建夫・龍澤彩／文 福音館書店

遠い空から雨はやってくる。雨は川となり海へとそそぐ。水はさまざまに姿を変えながら、世界中のあらゆる場所をめぐり、生きものをうるおしていくのです。水文学を専門とする著者による巻末解説も読みごたえがあります。



『ピラカンサの実るころ』 児913ト

鳥居真知子／著 読売ライフ

真っ赤な実をたわわにつけるピラカンサに、美しいヒレンジャクという鳥が集まります。この鳥を一目見たい咲子に、優しく手を貸してくれたおじいさんとの交流を描いた『ピラカンサの実るころ』をはじめ、じんわりと心温まるお話が10篇収められています。



『がんばれヘンリーくん』 児933ク

ベバリイ=クリアー／作 学研

小学3年生のヘンリーくんはある日、街角でガリガリのやせ犬・アパラーを拾います。バスに乗って連れて帰ろうとしますが、ばれて大騒ぎになった話、ペットショップでグッピーを一つがい買って何百匹にも増えてしまった話、友達の大切なボールを無くしてしまい、弁償するために釣りの餌に使うミミズを1319匹もつかまえた話など、ヘンリーくんのまわりで起きる出来事が楽しく描かれています。



『さよなら、おばけ団地』 児913フ

藤重ヒカル／作 福音館書店

取り壊しが決まったとても古い「桜が谷団地」(通称「おばけ団地」)にはちょっと怖い噂があります。消えてしまった子ども達のゆうれい、子どもを給水塔から突き落とす黒マントの男、屋上に向かってのびる白い手、まぼろしの4号棟…。次々と起こる不思議な事件を皆さんもちょっとのぞいてみませんか？



『黒ネコジェニーのおはなし』 児933ア

エスター・アベリル／作・絵 福音館書店

ジェニー・リンスキーは赤いマフラーがトレードマークの小さな黒猫。キャット・クラブに入りたいけれど、みんなの前に出ていく勇気がありません。だってキャット・クラブに入るには何か特技が必要だからです。でも飼い主のキャプテン・ティンカーがスケート靴をプレゼントしてくれて…。



『黒ネコジェニーのおはなし』は3巻まであります。

『自分におどろく』 児911夕

たなかかずお／文 童話屋

この小さいサイズの本には、地球が生まれ、人類が誕生し、今に至るまでの壮大なスケールのお話が詰まっています。人間が二本足で立ったときのお話や、奇跡のような自分についてのお話が、絵本作家あべ弘土さんの絵と共に楽しくわかりやすく表現されています。



『ゆうかんな女の子ラモーナ』 児933ク

ベバリイ=クリアリー／作 学研教育出版

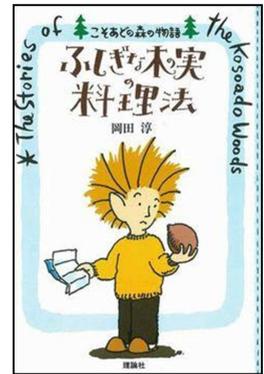
ラモーナは活発で元気な女の子。待ちに待った小学校へ入学したものの、ちょっとしたさわぎを起こしてしまいます。先生に注意されて、みじめな思いばかり。ラモーナの自信はガタガタにくずれてしまいます。失敗をくりかえしながら成長していく姿をあたたかな視線で、ユーモアたっぷりに描いた物語です。



『こそあどの森の物語』 児913才

岡田淳／作 理論社

この森でもなければ その森でもない あの森でもなければ どの森でもない-----「こそあどの森」は、どこにあるかわからないふしぎな森。ウニを乗せた船のような形の家ウニマルや巻き貝の家など、個性豊かな家に住む、個性豊かな住人たちの物語。『こそあどの森の物語』は12巻まであります。



『魔法使いのチョコレートケーキ』 児933マ

マーガレット・マーヒー／作 福音館書店

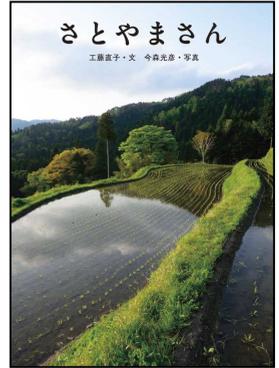
あるところに、魔法の腕は悪いが、すばらしいチョコレートケーキを作ることができる魔法使いがいました。魔法使いはパーティーを開いて町中の子ども達にご馳走したいと考えますが、子ども達は悪い魔法使いだと誤解して誰一人来ません。お茶の相手は一本のリンゴの木。それから何年も何年も経ったある日のこと…。



『さとやまさん』 E1

工藤直子／文 アリス館

写真家・今森光彦さんが撮影した四季の美しい里山風景に「のはらうた」でおなじみの工藤直子さんが「さとやまさん」として擬人化し、やさしく語りかけます。人と自然が寄りそって一緒につくる里山。私たちの近くにも「さとやまさん」はいます。



『ものぐさトミー』 児933デ

ペーン・デュボア／文・絵 岩波書店

トミー・ナマケンボの家は全て電気じかけ。朝起きてから夜寝るまで、食事もお風呂に入るのも機械がなんでもやってくれます。ところがある日、嵐がやってきて電気が止まってしまいます。翌日やっと電気が通ると…。



『ゆかいなホームーくん』 児933マ

ロバート・マックロスキー／作 岩波書店

アメリカの田舎町に住むホームーくんが次々とおもしろい事件を巻き起こします。ペットのスカンク・アロマと協力して強盗を捕まえたり、ドーナツ製造機がこわれて、店中をドーナツだらけにしてしまったり…。挿絵も一緒に楽しんでください。

